

12月のイベントカレンダー

1	日	休館日
2	月	休館日
3	火	13:30 日本語サロン
4	水	
5	木	
6	金	12:00 地球ちよい旅「中国語でヨガ」
7	土	
8	日	10:00 日本語ひろば 10:00 地球ちよい旅「タイ料理」
9	月	休館日
10	火	13:30 日本語サロン
11	水	
12	木	
13	金	12:00 地球ちよい旅「中国語でヨガ」
14	土	医療研修生ホームステイ(～12/15)
15	日	休館日
16	月	休館日
17	火	13:30 日本語サロン
18	水	
19	木	
20	金	12:00 地球ちよい旅「中国語でヨガ」
21	土	13:30 情報紙発送作業
22	日	10:00 日本語ひろば
23	月	休館日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	休館日
30	月	休館日
31	火	休館日

会津若松市国際交流協会

〒965-0871 会津若松市栄町2-14
レオクラブガーデンスクエア5階
TEL 0242-27-3703 FAX 0242-27-3704
ホームページ <http://awia.jp> メール mail@awia.jp

出会う、つながる、カラフルふくしま 第4回子ども多文化フォーラム

外国にルーツを持つ「カラフルな子どもたち」のフェスティバルです。
参加費無料、どなたでも自由に参加できます。詳しくはホームページを
ご覧ください。

主 催 福島移住女性支援ネットワーク・EIWAN
つばさ～日中ハーフ支援会福島多文化団体～心の橋
日中文化ふれあいの会～幸福

日 時 12月14日(土)11:00～16:00
場 所 郡山市中央公民館 (郡山市麓山1-8-4)

プログラム 第一部 子どもダベリ場 11:00～12:30
第二部 多文化共生団体による文化発表 13:00～13:30
第三部 子どもたちによる文化発表 14:00～15:30

問 合 せ 福島移住女性支援ネットワーク・EIWAN
TEL 080-8215-1556 Eメール eiwan311@gmail.com
URL <http://gaikikyo.jp/shinsai/eiwan>

会津大学 インターナショナルトーク 「コロンビアについて学ぼう」

会津大学グローバル推進本部とSAISUA(会津大学留学生後援会)で
は、インターナショナル・トークを開催します。本学に留学中の学生が、
コロンビアについて様々な情報を紹介します。留学、国際交流に興味
がある方は是非ご参加ください。参加費無料、申込み不要です。昼食と
飲み物などは各自ご持参下さい。

日 時 12月19日(木曜日)12:40～13:10
場 所 研究棟1階127 グローバルラウンジ
講 師 コロンビアからの留学生
問 合 せ 会津大学 グローバル推進本部 国際戦略室
TEL 0242-37-2761 Eメール osip-global@u-aizu.ac.jp
URL <https://www.u-aizu.ac.jp/osip/event/post-16.html>

あなたの写真が全国に！観光PRに役立ててみませんか？ 極上の会津 観光PR画像 大募集

四季折々の風景、景観、建物、食、イベントなど、あなたが撮影した会
津の素晴らしい画像を、メール送信でご応募ください。本人が撮影した
ものに限りです。応募いただいた画像はfacebookページで公開し、極上
の会津プロジェクト協議会事業(ガイドブックなど)で活用させていただ
きます。送信先メールアドレスや注意事項などの詳細は、ホームページ
でご確認ください。

問合せ 極上の会津プロジェクト協議会事務局(会津若松市観光課内)
〒965-8601 福島県会津若松市東栄町3-46
TEL:0242-39-1251 FAX:0242-39-1433
URL <https://gokujo-aizu.com/photos>

お手伝いお待ちしています！

情報紙FINEの発送作業のお手伝い(封づめ、糊付けなど)をお願いし
ます。申込不要、当日直接お越しください。

日 時 12月21日(土)13:30～ (場所:当協会)
※年末ですので、日程を早めて発送作業を行います。

FINE

Freedom/International/Necessity/Experience

会員随時募集中

会津若松市国際交流協会では会員を募集しています。
お気軽にご相談ください。会員の方には、情報紙FINEを毎月お送りします。

中国荊州市 医療研修生のホームステイ先募集！

中国荊州市からの医療研修生2名(呉さん、陳さん)の
ホームステイ先を募集します。7月末からの竹田綜合病院
での研修も、終わりが近づいてきました。研修で、忙しい
日々を過ごしてきたお二人ですが、日本語も熱心に勉強
し、先日の「日本語発表会」では素晴らしいスピーチを披露
してくれました。そんなお二人と、日本語、英語を使って交
流したり、中国語を教えてもらえるチャンスです。詳しくは、
お気軽にお問い合わせください。

期 間 12月14日(土)15:00～
～15日(日)15:00 1泊2日
募集家庭 2家庭(1家庭1名お願いします)
内 容 研修生のホームステイ受入れ
謝 礼 食費程度の謝礼をお支払いします。
申 込 み 12月7日(木)までに当協会へ

日本語ひろば



第2・4日曜 日曜日にも、日本語を学ぼう！

在住外国人の増加による、「休みの日にも、日本語を学
べる場がほしい！」という声を受けて、協会では、第2・4日
曜に通年開催している「子ども日本語ひろば」を、試験的
に、誰でも(大人も)学習できる「日本語ひろば」に拡充しま
す。今回は期間を区切り、12月から3月まで、全8回の開催
です。お近くの外国の方で、日本語を学習したい方や、今
までは仕事などで忙しくて平日のクラスに参加できなかった
方などがいましたら、ぜひ、日曜クラスを教えてあげてく
ださい。

期 間 令和元年12月8日(日)
～令和2年3月22日(日) 全8回
時 間 第2・4日曜日 10:00～11:30
場 所 当協会
対 象 日本語学習の経験のある方
受 講 料 協会会員2,000円、会員外3,000円
申 込 み 協会まで
※学習内容を詳しく知りたい方、期間の途中からで
も、申し込みたい方はご相談ください。

年末年始の休み

今年も一年、ありがとうございました。

年末年始休業のお知らせ

協会事務所は、12月29日(日)～1月3日(金)まで、年末年始のため休館となります。
新年は1月4日(土)から平常通り(9:00～17:45)開館します。来年もどうぞよろしくお願い致します。
★「日本語サロン」は12月24日(火)、31(火)、1月7日(火)はお休み。新年は1月14日(火)からスタートします。

※各事業実施に伴う写真撮影及び掲載許可について(お願い) 事務局が皆様の活動の様子を撮影し、情報紙やホーム
ページ等に掲載する場合があります。掲載されたくない場合はお申し出ください。

10月15日(火)~29日(火)
JICA ベトナム青年研修事業

学びを活かす！ これからのベトナム観光を担う若者たち

xin chao
(シン チャオ)
こんにちは



会津若松市役所前での記念撮影 女性はカラフルな民族衣装「アオザイ」を着て

シンチャオ！ベトナム語でこんにちは！このたび当協会が受託したJICAの事業において、ベトナムの青年研修生13名が、東京都内、鎌倉、会津若松、南会津、裏磐梯の様々な場所で、観光振興の取り組みを学びました。研修員たちは明るく意欲的で、研修中には活発な質疑応答がなされました。研修後の感想を読み、私たちも大いに刺激を受けました。振り返りアンケートより、研修員たちの声を抜粋します。



ガイドの説明を聞くバン団長（左） 鎌倉

ガイドの説明を聞くバン団長（左） 鎌倉
な準備や、他人への心遣いに感動した。ベトナムでも、観光振興のために、人材を確保する必要があると痛感。日本のボランティアガイドの活動は、大変参考になった。帰国後は、ボランティアガイドクラブの設立を、上司に提案したい。（ダン ダイ バン）

ボランティアガイドに感銘！

来日は、強烈な台風が去った1日後だったが、東京都内の活動が元に戻るのが非常に早くて驚いた。研修では、情熱をこめて社会貢献活動に携わる、大勢の日本人に出会った。鶴ヶ城でのガイドツアーの際には、説明用の写真を持参するなどの細やかな準備や、他人への心遣いに感動した。ベトナムでも、観光振興のために、人材を確保する必要があると痛感。日本のボランティアガイドの活動は、大変参考になった。帰国後は、ボランティアガイドクラブの設立を、上司に提案したい。（ダン ダイ バン）



しんごろう餅を手にし
ほしっぱの家 南会津

森林や伝統文化が 観光資源になる！

南会津森林ネットワークでの研修で、森林を観光資源として利用できることがわかった。ベトナムは近代化を目指しながらも、伝統文化を維持する必要がある。だから、会津の伝統文化を観光資源に活用している経験とノウハウをもっと学びたかった。（グエン ティ セン タオ）

農業も観光資源！ベトナムと日本の共通点

観光PRIにおける先端技術導入などを、もっと学びたかった。ベトナムの観光商品は魅力が足りないと言われているので、観光商品を開発したりブランド化する基本的なプロセスに興味がある。ベトナムと日本の農業は共通点が多い。今回学んだことを踏まえて、ベトナムの農業を観光資源として活用する方向性を考えたい。（ヴトゥイハン）



新商品のジェラートを試食
大友ファーム見学 会津

新しい学びへの向上心を持ちつつ、 独自の文化も大事にしている人々！

日本人は常に新しいことを学びたいという向上心があるが、自分のアイデンティティーを維持し、独自の文化を大事にしている。日本の刺身、ラーメンはどれも独自の風味がありながら、多様性に満ちている。日本人のおもてなしや、きめ細やかさにも感心した。（グエンドン パオ）



ベトナム語を教えるパオさん
地球ちょい旅「ベトナム編」

最終日の発表会にて

ベトナムの秘境「ソンドン洞窟」の持続可能な開発のために

ベトナム奥地の秘境と言える場所に、2009年に世界最大と認定された神秘的な洞窟がある。大きさは全長約7km、最大の高さが240mもあり、50階建てのビルがすっぽり入ってしまうほどの大きさである。この未知なる魅力的な洞窟を観光資源としていかに開発していくのかが、これからの私たちの挑戦となるだろう。今回の研修で学んだことを、確実に行動に移していきたい。観光振興は大事だけれど、一番大事なのは、現地の自然や村の民族の生活・文化を守りつつ、持続可能な発展を遂げることだと認識した。（ヴティ タインハイ）



ソンドン洞窟の開発プランを発表するハイさん

研修を支える 縁の下の力持ち！

研修監理員さんの頑張りに感謝！グエン ティ ミン ヴァンさん

戊辰戦争について熱心に聞くヴァンさん↓

JICAの研修監理員という仕事をご存じでしょうか？来日した研修生たちを、生活から学習まで、あらゆる場面で支える重要な仕事です。今回のベトナム青年研修事業で研修監理員を務めたヴァンさん（ベトナム出身）は、頼れる引率者役と面倒見のよいお母さん役、そして完璧な通訳者という三足のわらじを見事に履きこなす、素晴らしい方でした。研修成功の影の功労者、ヴァンさんにお話を聞きました。



Q. 研修監理員になるには、どのような能力が必要ですか？

担当言語と日本語の両方で、文章をしっかりと書ける能力、分かりやすく伝える能力、そして両方の文化についての十分な理解が必要です。講師の説明が、研修員の母国の文化背景と照らし合わせて分かりにくいと判断した際には、追加の質問と説明で研修員の理解を促します。研修員がよりよい発想ができるように環境を整えるのも、私たちの仕事です。研修員は基本的には大人ですが、慣れない日本の生活の中で戸惑うことが多々あります。彼らが充実した毎日を送れるように、文化のギャップを想定して事前に十分に説明します。トイレの使い方、電車の乗り方、宿泊施設の使い方、保険の適応範囲などを説明し、事故や病気などのトラブルにも対応します。面倒見の良さや、他人への気遣いが求められる仕事です。

Q. 研修監理員の仕事の魅力は何ですか？

仕事で母国の人に会い、母国のトレンドについて聞いたり懐かしいお土産を貰えるのが嬉しいです。でも一番の魅力は、自分の案内や通訳によって、研修員が日本を理解し、日本を好きになってくれることです。好きになるといつの間にか、研修員の心に、自国を日本のように発展させたいという熱意や決心が芽生えます。そういう時に、とてもやりがいを感じます。

Q. 今回の研修を通しての感想と、会津の観光振興についてのアドバイスをお願いします！

今回の研修では楽しい思い出が沢山できました。研修員たちは明るくて、日本で何を学びたいかという目標がありました。前半が東京、後半が会津というプログラムもバランスが良いと思います。会津の「おもてなし」は十分素晴らしく、長年日本に住んでいる私ですが、東山温泉での体験は忘れられません。ただ、東京などと比べると会津はやはりアクセスが大変です。研修員たちは会津で良い思い出を沢山したので、再び会津に来たいと思うかもしれません。ですが、海外からの一般的な1週間ツアーには、会津に行くプランがほとんどありません。彼らの立場になって、会津に行くなら、どこにどうやって行くかなどの負担のないプラン（多言語で？クーポン付き？）を、研修後に配ったらどうでしょう。会津の方々は大変優しく親切です。さらに「おもてなし」で他の地域に差をつけたいなら、積極的なアプローチ（自ら話しかけるなど）をすると良いかもしれません。

秘境を旅した若林美代さんの、インド・ザンスカール紀行の続編です。

若林 美代の

旅はいつも幸せ気分

インド・ザンスカールの旅⑤「秘境の力」 VOL.38



ホームステイしたティンレイさんの両親（近この村に住んでいる）
おばあちゃん、孫娘の手ほどきで、3泊4日、宿（私たち）のスマホに夢中。帰る時は重たい荷物（お土産）をいっぱい持ってきた。自分で縫った手紡ぎのウールの民族衣装がカッコいいおじいさん。80才超で山奥で飯をおかきし、風のように歩いて帰った...

秘境＝たどりつくのが困難なところ、と考えれば、インドの奥地のザンスカールはまぎれもなく秘境です。夏こそ車で（飛行場のある町から悪路を一泊二泊かけて）行けますが、冬は雪と氷で外界とへだてられた陸の孤島となり、凍りついた川を歩いて行く他ない…。しかし、昔から人々が暮らしてきた土地であり、チベット仏教の立派な僧院も多く、ヒマラヤに続く高い山に囲まれた、清涼な気の流れる桃源郷のようなところ。そこに暮らす人たちは、夏は超多忙（家の新築・改修から結婚式、寺院のお祭り、大麦や野菜の収穫など、やること山ほど）なのに、ゆったりと旅人を迎えてくれます。村のお寺を訪れた時、法事をしているので入り口で待っていたら、入っていいよと手招きしてくれ、末席に座ったら皆が手持ちのチャパティやお菓子を出してすすめてくれました。秘境だからといって閉鎖的ではない、開かれた心を持つ人々たちなのです。旅行者だからとじろ見られたりすることではなく、ごく自然に接してくれました。

世界中どこに行っても「スマホ歩き」の人ばかりになった昨今、この人たちも好奇心旺盛なので、数年後に行けば皆スマホを手にもっているかもしれません（今はまだほんの少し）。でもやはり、独特の暮らしや文化を守ってゆったりと暮らしているのではと、期待半分確信半分です。